



モグラはどうして、あなほりがうまいの

土の中でもこまらない体のしくみ

モグラは、長い間、土の中でくらし、土の中で、すばやくトンネルをほって、動き回れるような体に、進化してきました。

まず、土の中で動き回るので、だいたい部分に土が入らないよう、耳は毛の中にかくれ、目も退化して、皮の下にうずまっています。口も土が入らないように、くちびるの内側にもう一つ、くちびるがあります。口のまわりには、あたりの様子がさぐれるよう、アンテナがわりの長いひげが生えています。

トンネルほりに合った体をもつ

トンネルをほりやすい体の特長も、いろいろもっています。スコップのような前足は、先に長いつめが生えていて、手のひらが、土をかき分けやすいように、外側を向いています。後ろ足の指の内側には、親指のようなとっきがあり、ほった土を、後ろにけとばしながら、前に進みやすくなっています。長くと

がってつき出した鼻先は、上の部分が厚い皮におおわれ、この鼻先で、やわらかい土をほりあげて前に進みます。

土をほるのは大変な作業で、人間でも大汗をかきます。モグラも、暑くなると、汗が出て、体温を下げられるような体のつくりになっています。短く太いしっぽは、体温を冷やす役目もしています。（監修・今泉 忠明）

